

(1)「まずは体験学習から」

事業名 福祉体験学習

(車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験、
点字体験、手話体験、要約筆記体験)

実施団体 名称 社会福祉法人ひたちなか市社会福祉協議会

所在地 ひたちなか市西大島3-16-1

TEL 029-274-3241

メール hnsa-o1@abeam.ocn.ne.jp

記入者 大津 希望

1 ねらい

若年時から、ボランティア体験や体験学習を通じて、福祉への関心を高め、のちの地域福祉の担い手の育成につなげる。

2 事業内容（活動内容）

市内17小学校、7中学校、義務教育学校1校、高等学校6校を対象に実施。主に小学4年生に対して行い、総合的な学習の時間での実施が多い。

各学校の希望に応じて、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験、点字体験、手話体験、要約筆記体験を行う。

3 成果・効果

ボランティアグループに講師を依頼している体験活動もあり、興味を持った小学生から市内グループへの加入希望の問い合わせがあり、グループ活動につながっている。

小学校で体験し、中学校でも体験するので、より深く理解する機会ができた。

4 今後の課題

- 学校との連携：毎年、各学校には実施の2～3か月前に実施希望調査を行い、必要に応じて担当の先生との相談・打ち合わせを行っている。しかし、先生方が多忙なこともあり、体験プログラムを相談する時間の確保が難しい。子どもたちにどのようなことを学ばせたいのか、先生方の思いを確認しながら取り組めるようにする必要がある。
- 地域との連携：要約筆記や手話の学習などでは、障がい当事者の協力を得ているが、さらに車いすユーザーなど多様な当事者の方々に協力を拡げたい。

◆連携団体やキーパーソン

- 体験学習サポーター：毎年養成講座を実施している。現在は35名が登録し、各学校で数人ずつ福祉教育の協力者として活動している。
- 学区内の高齢者施設職員：車いすの操作方法の指導と介護現場での体験談を依頼している。
- ボランティアグループ：要約筆記や手話のグループの方々の協力を得ている。
(コロナ禍でR2とR3は協力が難しい状況もあったが、継続できるよう連絡をとっている。)

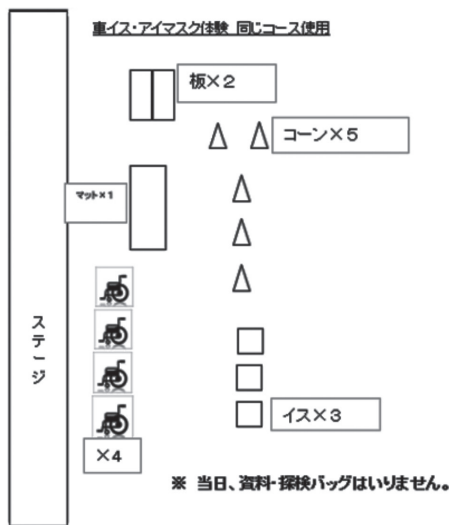
◆準備からふりかえりまで

【事前準備】

- ①前年度2月～3月に各学校に前年度体験ベースで、希望調査をし、日程、内容の確認を行う。
 - ②各学校からの返信が来てから、日程の重複の調整と、講師や体験学習サポーター、協力施設調整を行う。
 - ③実施予定日の2か月前までに体験学習の内容や詳細を学校から提出してもらう。
 - ④実施日1か月前までに学校担当者と打合せ。実施内容に変更がないか、当日の集合時間や講師の車の駐車場所、必要用具の確認をする。車いす体験では4人1組、アイマスク体験では2人1組になるので、事前に決めてきてもらう。
- ※コロナ禍での実施では、外部講師の人数制限や各学校で気を付けたい事柄がないか確認をする。

【当日】

- 車椅子体験、高齢者疑似体験、アイマスク体験
- ①学校集合は30分前。
- ②車いす準備や体育館での体験コース作成。



- ③体験学習サポーターと当日の流れについてミーティング。(担当コースや人数、注意事項の確認)



体験開始

- ①10分間：体験の説明を施設職員また社協職員から行う。
- ②25分間：体験（体格が同じ児童同士で4人1組（乗る人、介助する人、補助する人×2））
- ③10分間：体験をしておの振り返り。体験を通しての感想や学んだことを発表してもらう。



- アイマスク体験…車いす体験と同日に実施する学校がほとんどなので、同じコースを使用して、コース内のロイター板を階段や段差に見立てる。



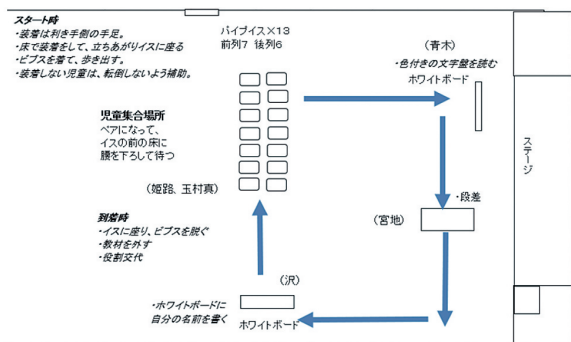
体験開始

- ①10分間：体験の説明を施設職員また社協職員から行う。
- ②25分間：体験（体格が同じ児童同士で2人1組（目の見えにくい人、介助する人））
- ③10分間：体験をしておの振り返り。体験を通しての感想や学んだことを発表してもらう。

●高齢者疑似体験…体験コースは、体験キットを装着した後は、階段や段差を用意。ホワイトボードに氏名を記入、本を開いてみる、服を着てみる体験をする。

体験開始

- ①10分間：体験の説明を施設職員また社協職員から行う。
- ②25分間：体験（体格が同じ児童同士で2人1組（体験者、介助する人。）
- ③10分間：体験をしておの振り返り。体験を通しての感想や学んだことを発表してもらう。



●手話体験、点字体験、要約筆記体験…市内サークルに講師を依頼。基本的な講座単位は、90分（小学校なら45分×2コマ）

体験開始

- ①20分間：講師から体験談や生活についての講話
- ②50分間：
 - ・手話体験は、簡単な挨拶や数字、指文字、手話の歌をする。
 - ・点字体験は、点字器を使用し、五十音を練習、児童の氏名を打つ。
 - ・要約筆記体験は、専用の紙を使用して体験をする。
- ③10分間：質疑応答。

※すべての体験において、事業終了時に講師や福祉体験サポーターと反省会、意見交換を行い、次回の体験に向けて調整する。



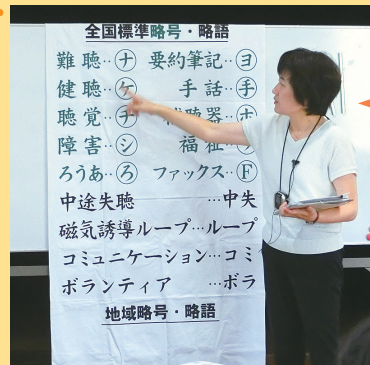
ゴーグルつけて足元は大丈夫かな？

ゴーグルつけて何色なら見えるかな？



自分の名前、点字で打てた！

黒板に点字を並べたよ。合ってるかな？



要約筆記の方から、書くときに使用する全国共通記号・略語を学ぶ